

金融経済教育だより

1学期末の「子どものくらしとお金」に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。子どもたちと保護者の皆様のアンケート結果から見えてきた課題と今後の取組についてお伝えします。

① お小遣いについて

お小遣いをもらっている児童の中で、「貯める」と回答した児童は、低学年（1～3年生）は48%、高学年（4～6年生）は50%であった。約半数の児童が貯金を優先している。無駄遣いせず、足りなくなってもがまんするなど、お金を大切にしている児童が多かった。しかし、高学年になるにつれ、友達との交際費や趣味に使ったり、インターネットでの買い物やゲームの課金などに使ったりするなど様々なお金の使い道の用途が見られた。また、78%の保護者は、お金の大切さや使い方について機会を捉えて話しているが、児童のアンケート結果からは自分事として捉えている様子はあまり見られない。



★ものやお金の価値、人とのつながりを意識させる活動の充実を図り、自分の生活や生き方を見つめ直す学習を様々な教科と関連させて実践していきます。（金融機関等と連携を図った出前授業を各学年で実施。生活科や総合的な学習の時間を中心にした取組）

② お手伝いについて

頼まれたらお手伝いをするが、自ら進んで働くなど習慣化して取り組んでいる児童は少ない。



★家族のため、まわりの人のために自ら働く勤労の精神、感謝の心を育む取組を行っています。（お手伝いがんばり週間、ありがとう集会の実施など）

③ ものについて

自分の持ち物を大切にしていると答えた児童が多かったが、実際には各教室などにおいて落とし物が多かったり、学用品を大切に使用していなかったりする場合があるなど児童の意識と実態の差が大きい。保護者も児童がものを大切にしていなと感じている割合が高く、児童と保護者の意識の差が大きいことが分かった。



★委員会が主体となり、ものを大切にする意識を高める取組を学校全体で行います。（集会等での呼び掛け、落とし物なくそう運動の実施など）

『ものやお金・人とのつながりからよりよい生活を目指し、たくましく生きる児童の育成』を研究テーマに2年間金融経済教育の研究を進めて参ります。

今後、学校や各学年の取組を定期的にお知らせして参ります。これからもお子様への声掛けや話題の共有など、本校の研究にご協力の程よろしく願いいたします。

